

北朝鮮人道支援の会 ニューズレター NO.54

(朝鮮民主主義人民共和国)

編集・発行人 吉田 康彦

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町1145 TEL:048-641-8203 FAX:048-647-6191

E-mail: yy2448@chive.ocn.ne.jp URL: http://www.yoshida-yasuhiko.com/

2008年9月1日

郵便振替番号: 00140-4-126579 加入者名「北朝鮮人道支援の会」

成果をあげた子どもの日朝交流 ——「南北コリアと日本のともだち展」 訪朝の旅 筒井 由紀子

盛り上がったピョンヤンの子どもたちとの交流

8月20日から1週間、「南北コリアと日本のともだち展」訪問団として朝鮮民主主義人民共和国を訪れた。首都ピョンヤンは、今、9月9日に迎える建国60周年の準備に沸いている。街のあちこちで、赤やピンクの造花を手にした女性や赤い旗を持った若者らの集団が見かけられ、パレードのメインである金日成広場には、早朝から夜遅くまで、グループが入れ替わり練習をおこなっている。たくさんの人が移動のために道を渡り、車が通れなくなることもしばしばだ。かなりの数の人たちが参加する大きな行事となるようだ。

「南北コリアと日本のともだち展」は東京、ソウル、ピョンヤンの3カ所で絵画展を開催し、それぞれの国の子どもたちが絵を通してお互いを知り、「まだ見ぬ未来のともだち」に思いをはせるというもので、今年で8年目を迎える。

6月に東京で開催され、8月にピョンヤン、9月にはソウルで絵画展及び子ども達の交流が行われる。ピョンヤンの小学校で絵画展・交流をするのは7年目である。今回の訪朝には、昨年同様、東京の朝鮮学校の子どもたちが参加し、日本に住む子どもたちとピョンヤンの子どもたちをつなぐという大きな役目を果たしてくれた。

しかし、実行委員会の思いもかなわず、昨年に引き続き、今年もピョンヤン市ルンラ小学校での絵画展開催は実現できなかった。日朝関係は、安倍政権の退場により、昨年よりやや好転したものの、その後、六カ国協議、特に米朝関係が進む中、依然として厳しい状態が続いている。

学校側の説明によると、朝鮮の人たちにとって、8月は特に日本の植民地支配を思い出すとき。現地では反日感情を高める報道も多く、保護者の反応などが気になるという。絵画展は開催できないが「交流はぜひ継続しましょう」という言葉から学校の立場の苦しさも伺える。

今回は、ルンラ小学校、チャンギョン小学校の2校で、液晶プロジェクターを持ち込み、大きなスクリーンで東京での絵画展の様子や、ピョンヤンには行けなかった日本の子どもたちのメッセージを映し出した。絵画展は出来なかったが、多くの子どもたち、先生方に東京展の雰囲気を感じてもらうことができた。ルンラ小学校の校長先生は、「ずっとこの絵画展に参加し、日本の子ども達の絵を見て、日本の子ども達のことを身近に感じるようになった」と話した。また、音楽の先生は「朝鮮の子ども達のかわいい絵を日本に紹介するのはとてもよいこと。きっと日朝関係の改善

に役立つと思う」と話してくれた。ピョンヤンの学校の先生方も私たちと同様に子ども達の交流から平和な未来を願っている。

チャンギョン小学校では、同行したジャズピアニストの河野康弘さんがピアノを弾いて、子どもたちと一緒に朝鮮の歌「故郷の春」を歌った。両国の関係は厳しい状況が続いているが、会場には和やかな空気が流れ、日本から行った参加者と朝鮮の人たちが出会い、心を通わせようとする場面がそこにはあった。

食料不足深刻な被災地・江原道

江原道を訪れた。江原道は道内各地で昨年の洪水や土砂崩れの大きな被害を受けている。その復興状況の調査と育児院(孤児院)への訪問が目的である。



江原道人民委員会対外事務局の李ヨンギル局長によると、住宅はほぼ復旧したが、その他の復旧(農地など)は80%程度の状況。昨年の洪水被害による影響と世界的な食糧の高騰で、今年の食糧供給量は落ち込んでいて、今年3月までは、450グラムだった配給が、4月350グラム、5月250グラムと減り、6月からは150グラムになっているとのこと。育児院では、粉ミルクの不足を豆乳で補っているものの、離乳の時期に必要なお粥にする白米が不足しているとのこと。呼吸器の疾患や消化不良の子どもたちもいて、平壤市の育児院と比べても、子どもたちの様子はとても元気には見えない。朝鮮赤十字会の副書記長 金雲哲氏も、昨年の洪水被害に加え、今年は雪や雨も少なく、春植えの麦などの収穫量が少なかったために、食糧事情は緊張していること認めている。国際赤十字連盟とも連携して、栄養食品や代用食品を購入し、援助しているそうだ。WFP/FAOも6月の現地調査で、ここ数年は見られなかったような食糧事情の悪化を報告し、7月30日北京で発表したプレスリリースで深刻な食糧不足への支援を呼びかけている。

訪問した日は大型低気圧が通過中で、海は一晩中大荒れだった。沖に避難していた万景峰号は、いったい、いつになったら再び日本に来るのだろうか。万景峰号の運行停止という制裁措置はいったい誰を対象としているのだろうか。かの地に親戚を持つ在日朝鮮人たちが待っていることを、そして多くの子どもたちを救うことができる船であることを決して忘れてはならない。

【コリア子どもキャンペーン事務局長】

通信欄

会費・義援金・寄付金ありがとうございます。

以下はニューズレター前号(2008年5月15日付)刊行以来、会費・義援金を納入して下さった方々です。(納入/受領日付順・カッコ内は納付・寄託金額)

【年会費2000円プラス寄付金】

匿名希望(5000円)、片山祐一(2000円)、手束光子(3000円)、笠井博之(3000円)、小山内美江子(5000円)、趙 深宅(7000円)、松田章一(5000円)、金 鎮度(3000円)、坂下康子(5000円)、匿名希望(3000円)、庄司 徹(2000円)、川崎 学(3000円)、鄭 萬佑(3000円)、匿名希望(5000円)

累計人道支援基金・運用資金 150,529円
(2008年8月30日現在)

当会の年会費2000円は「ニューズレター」の購読料金で、会員としての最低限の拠出額です。年間の編集・印刷費用、郵送料、事務経費で、ほぼ相殺されます。2000円に上乗せして送金して下さる額が人道支援の基金です。金額は自由ですが、なるべく多額のご寄付をお願いします。寄付は常時受付けています。

会員通信

★日朝国交正常化の早期解決を望みます。拉致問題ははじめ諸懸案は対話を通して解決すべきです。(加須市在住・笠井博之)
★北朝鮮側の核施設の「無能力化」をいうなら、なぜ米国は自国の核施設の「無能力化」に応じないのか。「同時行動の原則」に反するではないか。(岡崎市在住・大久保敏明)

【お答え】「同時行動の原則」は2005年9月の6者協議共同声明で確認し合ったものですが、北朝鮮側の「無能力化」に対しては、米側は「テロ支援国家指定解除」で応じるようになっており、北もそれに同意したのです。(編集部)

【解説】日朝国交正常化はなぜ必要か 吉田康彦

昨年に続いて今年も集中豪雨に見舞われ、北朝鮮は食糧事情の悪化が伝えられています。そうすると毎年毎年、無制限に人道支援が必要になってきます。

この悪循環を断つ道が朝鮮半島非核化であり、多国間の枠組みを通しての経済・エネルギー支援です。インフラ整備が急務です。その辺は平壤の指導部も熟知しています。

私は1995年、北朝鮮のほぼ全土を襲った大水害のあと、吹浦忠正・柳瀬房子さんらと「朝鮮の子どもにタマゴとバナナを送る会」を結成し、支援物資を携えて現地入りした最初の日本人です。その後も訪朝を重ねて人道支援を続け、政治的立場を超えて、超党派で市民レベルの人道支援が目的に1999年4月、本会を正式に立ち上げました。

過去9年間に数回にわたって義捐金、食糧・医薬品を届け

てきました。全国の会員は一時期500名を突破しましたが、2002年9月、小泉訪朝後、拉致問題が“炎上”して国内世論が反北朝鮮一色に染まり、猛烈な北バッシングが始まってから会員が激減、現在は150名程度です。しかし現在の会員はみなさん“時流”に翻弄されない信念の持ち主でニューズレターを熱心に読み、会費・義捐金を送って下さる方ばかりです。

最近、本会は対処療法的な食糧・医薬品の支援よりも、日朝国交正常化の早期実現に活動の主力をおいています。同時に、人道支援の幅を広げて、日本語教材・日本語図書への支援を開始したのは皆さまご存じのとおりです。なぜ日朝国交正常化が必要なのかを説明します。

冒頭で記したとおり、北朝鮮では毎年、自然災害、とくに水害が発生しています。山岳地帯の畑が流され、土砂が河川に流れ込んで川底を埋め、豪雨が降ったり、雨が長引いたりするとたちまち洪水が起き、人家や田畑に浸水するのです。根本的な治山治水対策を講じなければ、毎年この繰り返しになります。道路も未舗装が多くインフラはずたずたです。

日本は、2002年9月の小泉訪朝の際、「日朝平壤宣言」に署名、「過去の清算」として、形は経済協力ながら、100億ドル相当の資金供与を約束しました。金額は明示されていませんが、日朝双方の交渉当事者は「宣言」起草の段階で、経済協力は、発電所建設、道路・港湾・感慨整備など、北朝鮮のインフラ整備と再建に重点的に投資されることで合意しているのです。

ところが、北が拉致を認め、金正日総書記が謝罪した途端に日本の世論は激昂、猛烈な北バッシングが起き、国交正常化どころではなくなったわけです。

拉致被害者家族を前面に押し立てて、拉致問題の「解決」を要求している人びとは日朝国交正常化を望んでいません。むしろ金正日体制打倒をもくろんでいます。しかしブッシュ政権を含めて、関係国は、北の核廃棄を通して朝鮮半島非核化が実現するなら金正日体制を全面的に支援し、北東アジアの平和と安全保障の枠組みに取り込んで協力を進めていく意向です。それが北京の「6者協議」の目的です。日朝国交正常化も、2005年9月の共同声明で共通の目的として組み込まれています。

日朝国交正常化は、①日本の安全保障 ②(経済協力資金の還流に伴い)日本の経済権益に資するとともに、③「過去の清算」を通して道義的・精神的満足も得られます。

日本側の関係者が完全に納得し、満足するような「拉致問題の解決」はあり得ません。いわゆる“政治決着”しかないのです。これを決断し実行できるのは福田首相しかいません。首相の決断を期待しましょう。

好評発売中!

吉田康彦著

『北朝鮮「再考」のための60章——日朝対話に向けて』(明石書店刊) 定価2000円+税

最寄りの書店でお求めになるか、版元(明石書店)にご注文下さい(TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1175)